

科目名	工芸概論				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2022年度 後期	単位数	2		
担当教員	井波 純				
内容および計画	<p>現在、日常の生活は多種多様となり、工芸の役割や意義を理解する機会は減少している。この講義では漆芸の歴史解説を中心に、古代から現代までの工芸品の流れを解説し、日本の工芸がもたらしてきた影響を理解し見識を深めることを目的とする。また、授業期間中に福島県立博物館を特別見学し学芸員の解説とともに常設展示されていない漆工芸品を拝見し、地域の歴史的工芸品についても考察を深める。</p> <p>授業の進め方は、受講者をグループ分けし毎回の授業終了後、それぞれのグループで授業内容に即したテーマを設定しそのテーマについての考察結果をパワーポイントにまとめ、1グループ10分から15分の時間で次回授業時に発表する。なお、博物館見学については、博物館側の都合により別の時限にて見学する場合もあり、その際は前後の授業内容が入替え変更となる。</p>				
1	授業ガイダンス 草創期の工芸縄文の力				
2	渡来人の影響				
3	グループ発表、ディスカッション 古墳時代の副葬品に見る漆文化				
4	飛鳥時代の漆芸玉虫厨子奈良時代の漆芸				
5	グループ発表、ディスカッション 奈良時代の漆芸漆芸装飾技法の始まり				
6	平安時代1 漆芸技術の発展				
7	グループ発表、ディスカッション 平安時代2 国風文化の影響				
8	鎌倉時代武家の台頭技術の発達				
9	グループ発表、ディスカッション 室町時代、武家の工芸文化				
10	ヨーロッパとの繋がり南蛮貿易と漆器				
11	県立博物館特別見学 博物館所有の漆工品について特別拝観、学芸員の解説を受ける				
12	県立博物館特別見学 博物館所有の漆工品について特別拝観、学芸員の解説を受ける				
13	グループ発表、ディスカッション 根来にみる漆器のデザイン、安土桃山の漆工				
14	江戸時代鎖国と国内需要の隆盛				
15	グループ発表、ディスカッション 明治維新と漆芸品の輸出 昭和の漆工と現在工芸の未来に向けて				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
使用しない					
参考書	必要に応じて資料を配付する				
成績評価					

評価方法		割合(%)
出席状況と受講姿勢		20
レポート提出内容		30
グループ発表での協力状況と発表内容		50
学習到達目標	漆工芸をはじめ日本の工芸文化やその技法の変遷に関して正しい見識を持ち、同時に現代までの工芸品のデザインの流れを知る事により、それぞれのデザイン専門分野への応用も含め、より深みのあるデザイン力を身につける。	
先修条件		
実務経験		
その他		